

「第1回進路希望調査」配布しました 中学校卒業後の進路を考えよう

6月1日付けで「第1回進路希望調査」用紙を配布しました。この調査を基に6月10日から始まる教育相談（担任の先生との二者懇談）と1学期三者懇談の資料とさせていただきます。進路学習も始まり、いろいろなタイプの高等学校や専修学校。学科やコース、学ぶ時間帯が異なる学校。可否の仕組みや自己申告書についてなども学習をしました。

進学を希望する人は①のA～F、就職を希望する人は②のG～Jの欄に学校名や職種などを記入してください。

進路学習で使用している「中学校卒業後の進路を考える」薄緑の冊子を参考に、自分一人で勝手に記入するのではなく、必ずお家の方とよく話し合ってから記入し、保護者印を捺して**6月9日までに提出**してください。

「6月4日 第1回実力テスト」後悔をしないために

実力テスト前にこんなことを良く聞きます。

「実力」やから勉強せんでも実力で受けたらいいやん。

これは間違っています。テスト後、後悔しないために2年生までのテスト問題と向き合ってください。定期テストや実力テストが済むと答案に〇×がついて返ってきます。それから更に1週間くらいで「成績票」が渡されます。「努力の結果」との「ご対面」。

ここで「頑張った自分にお褒美」と思う人、逆に大いに「反省」。しかし、次の1週間が過ぎるとテストのことなんかキレイサッパリ忘れていくのです。これも「海馬」のせいかもしれません。「海馬」？もう、忘れてしまいました？

1週間後にキレイサッパリ忘れる……2年生3学期末のテストからはや三ヶ月。あのときの答案用紙はどうなっているのでしょうか。



【レベル1】

答案用紙が問題用紙といっしょにファイルされている。分類の方法は人によって違うでしょうが「3学期末テスト国語」はココ……という具合に、キチンと整理されていると、テスト前学習に役立つというわけです。

=== 悪夢再来率・・・60% ===

今までのテスト問題なんて……

悪くすると「行方不明」だったり「失踪」ということになっていませんか。あるいは事故により「消滅」していたり、意図的に「消される」ということも。

このようになっていると次回のテストも、ほぼ100%の確率で悪夢が再来します。

【レベル2】

「できた問題」と「できなかった問題」が、キチンと分類されている。これもまた方法は人によって様々でしょう。問題用紙の「できた問題」には青マーカーで印、「できなかった問題」には赤マーカーで印をつける程度でもよいでしょう。答案用紙には先生のつけた〇×がついているので特にチェックする必要はありません。

これらのマーカーのチェックはこれからの定期テスト、実力テスト、入試模擬テスト、入試の勉強をする際、自分の弱点の洗い出し作業で大いに役立ちます。

=== 悪夢再来率・・・40% ===



【レベル3】

多くの先生がやっているかと思いますが「間違った問題」の訂正、つまり誤答訂正です。別冊のノートを作り、間違った箇所を訂正して先生に提出する方法が一般的です。ただ、考え無しにやると、これがムダな作業になってしまいます。

大切なことは、後々の勉強で「間違った問題」にチャレンジするときその問題の正しい答が、誤答ノートの「ドコ」に書いてあるか、分かるようにする必要があります。先生からの指示だからと言って、機械的に訂正した誤答ノートを作っても意味がありません。

先生からの指示が特別ない場合には小さなメモ用紙に「誤答の訂正」を書き込み答案用紙の空いたスペースや裏側に貼り付けておくと良いでしょう。いつでも「できなかった問題」の復習ができるからです。

=== 悪夢再来率・・・20% ===

【レベル4】

「できなかった問題」が「できるようになっている」ことです。もちろん、それ以前に教科書やノートを参考に「誤答の訂正」をする必要があります。しかし、そこで安心してはいけません。勉強したような気分になり、勉強を終えてしまうのです。もう一步……なのに、誠に残念です。「できなかった問題」の「正しい答」がわかったらもう一度、自力で「できなかった問題」を解いてみましょう。解ければOK、解けなければ、まだまだ「わかっていない」のです。もしも、テスト返却後1～2週間後に同じ問題で再試験があるとしたらその時は、自分が取りたい点が取れる状態にしておかなければいけません。そこまでできて、本物の「反省」なのです。

=== 悪夢再来率・・・5% ===

テストの後、後悔しないために今出来ることをやりましょう。

「え～、そんなのゼツタイ無理！」と思った人……

あなたは受験生。ファイト！

